

平成17年度九葉連を終えて

菅原 隆文 (学部4年)

今年も5月3日～5日に福岡大学において九葉連が行われました。今回の参加校は、福岡大学薬学部、第一薬科大学、熊本大学薬学部、九州保健福祉大学、そして長崎大学薬学部の5校で、準硬式野球、硬式テニス、軟式テニス、サッカー、バスケットボール、バレーボールの6競技が行われました。4年の私たちにとって今回が最後の大会で、どの部も九葉連に向けて必死に練習していました。

私は、野球部に所属していました。野球は福岡大学、第一薬科大学、熊本大学、長崎大学の4校によるトーナメント戦で争われ、5月4日に準決勝2試合、5日に決勝と3位決定戦が行われました。私が野球部に入部して過去3大会いずれも準優勝で今年は必ず優勝するという思いで、1年間練習に励んできました。5月4日の1回戦は福岡

大学と対戦し、苦戦しながらも8対2で勝利し、決勝では熊本大学と対戦することになりました。2年連続で熊本大学に決勝で敗れていたの、今年こそ絶対勝ちたいという思いでした。試合はとても厳しい戦いになりましたが、6対4で勝利し、長崎大学が6年ぶり3度目の優勝を遂げました。この1年間、なかなか結果が出ない時期もありましたが、九葉連優勝を目標に一生懸命練習し、マネージャーやOBの方々に支えてもらいながら努力してきた成果が出たのだと思います。このチームで野球ができたことは私の誇りです。これからは野球部OBとして後輩の活躍を見守っていきたいと思います。

今回の九葉連で、長崎大学は、サッカー部が準優勝、女子バスケットボール部も準優勝、男子バスケットボール部が九葉連初勝利と、各種目にお



いてそれぞれの部がこれまでの練習の成果を發揮していました。九葉連でよい成績をあげるのももちろんですが、日々の練習などの過程もとても素晴らしいものだと思います。次回の九葉連は長崎

での開催でもあるので、後輩の皆には楽しくプレーして、素晴らしい思い出をたくさん作ってもらいたいと願っています。

戦後60年後のくびろが丘下の慰霊碑清掃を終えて

山澤 龍治（学部4年）

2005年8月7日、私たちは草木がぼうぼうに生い茂った慰霊碑の清掃に行きました。毎年の事ながら草木の生命力には驚かされます。しかしこの場所で実際に何が起き、どのような光景であったかは、私たち学生の祖父母が幼い時代の事なので、メディアで報道される程度しか知りませんでした。

約40人ほどが集まり、ゴミを拾い、草を刈り燃やしました。大変日差しが強い中、約2時間ほどで清掃は終了しました。慰霊碑に線香を上げ、黙禱を行いました。次に田崎先生（昭22）のお話がありました。私は田崎先生のお話を初めてお聞きしましたが、なにか胸の中に言葉では言い表すことができない熱いものと衝撃を感じました。

田崎先生のお話の内容はこうでした。長崎大学在学中に現在建っている慰霊碑の裏に防空壕を掘っていたところに原爆が落ちたこと。田崎先生は直接被爆を避けたが、当時の校舎は一瞬にしてなくなり、被爆した恩師、先輩、仲間はうめき、叫

び声をあげ亡くなっていったことを、涙ながらに話して下さいました。

先生のお話が終わると、私の心拍数が早くなるのがわかりました。考えてみると、宮崎出身の私にとって被爆体験者のお話を直接聞くのは初めてのことでした。

被爆体験記の抜粋冊子を全員に配布され、内容に目を通しました。ふと周りを見渡すと、学生が皆言葉にできない何かを感じ取っているように見えました。

私は無知でした。60年前に戦争があった程度しか知りませんでした。今回田崎先輩のお話を聞き、戦争の本当の悲劇を知ることができました。今回感じた言葉に表すことのできないこの胸の熱さを無駄にすることの無く、後世に伝え二度とこのような事が起こらない世の中にすること、またこの思いが衰退しないように、これからも毎年慰霊碑の清掃に参加していこうと思います。

旧小野島校舎跡地記念碑周辺の清掃

伊藤 潔（昭59）

本年度事業計画の一つであります旧小野島校舎跡地記念碑周辺の清掃に関して、事務局で参加者を募りましたところ、9名の方の参加協力を得ることができました。当日（平成17年11月27日の日曜日）は、明け方に雷が鳴るなど天気が危ぶまれましたが、9時過ぎには晴れ間ものぞき、柏葉会館前に集合した8名（諫早の高良先生は現地集合）は、2台の車に分乗し10時ちょうどに出発しました。

10時半過ぎに現地に到着すると、高良先生はすでに草取りを始めておられました。記念碑とその回りの状態は悪くありません。記念碑の後ろを見ると昭和63年6月吉日の建立となっていますから、17年前です。その後も小野島会の先輩方がていねいに手入れをされてきたのではないかと感じます。回りのゴミを拾い集め、雑草を取るとすぐにきれいになりました。朝からの雨のせい、焼却処分には手を焼いてしまいましたが、懸案であった小

野島校舎跡記念碑の清掃事業の第一回目を無事に完了することができました。聞くところによると、小野島校舎は記念碑のすぐ隣のグラウンドのところに建っていたとのことですが、この広々とした諫早の地で先輩方は学ばれていたのですね。

清掃終了後、西協会長の案内で一行はソフトボール場の横を抜けてどこかへ向いました。グラウンドを過ぎ、赤とんぼ広場と書かれた広場の向こうには蔦の絡まった給水塔が目に入ってきました。回りには金網が張られ、新しい設備ができていましたが、一同、しばしなぜか感慨深げに見入って



から、写真を撮ったのでありました。

帰り際、さきほど清掃を終えた記念碑に目をやると、刻ま

れた金色の文字が、長葉のシンボル「柏の葉」とともに、ひときわ美しく輝いて見えました。

ひっそりと、静かに建っている記念碑ですが、昔、薬学専門部の校舎はここに建ち、歴史が刻まれていたのです。すぐ隣には諫早「干拓の里」もあります。機会がありましたら、記念碑のことを思い出し、是非一度訪れてみて下さい。

場所は、諫早干拓の里の横で、市営ソフトボール場のすぐ隣です。詳しくは同窓会ホームページをご参照下さい。

参加者のお名前は次の通り。西協金一郎、高木康、木下敏夫、中島憲一郎、上田孝子、高良真也、中嶋弥穂子、伊藤潔、武次郁子、以上9名。

